



山口 悟郎

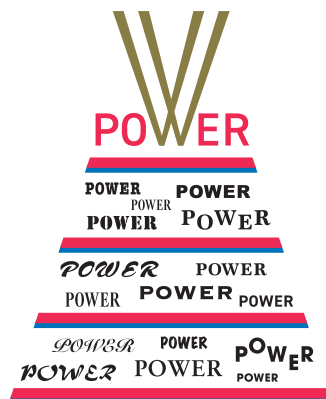
YAMAGUCHI Goro

京セラ代表取締役会長
関経連副会長

談論 風発

INTERVIEW

多様な力を結集し、 関西の未来を拓く



このたび関経連副会長を拝命し、堀場厚前副会長の後任として科学技術・産業振興委員会を担当させていただきましたこととなりました。その重責に身の引き締まる思いであるとともに、関西に拠点を置く企業の一員として、地域の持続的な発展に貢献できるよう、精一杯努めてまいります。

関西は、大阪を中心とした力強い経済活動に加え、それぞれの地域が独自の歴史や文化、産業基盤を有する多様性に富んだ広域経済圏です。松本正義会長が掲げる「大関西」の実現には、この多様性を力に変え、関西全体の競争力を高めていくことが肝要です。各地の強みを生かして互いに補完し合うことで、関西全体の発展につなげていくことができます。一方で、私たちを取り巻く社会情勢は、地政学リスクの高まりや物価の変動などにより、依然として不透明な状況が続いています。世界の変化が瞬刻間に企業経営や地域社会へ波及する時代にあって、個々の企業の努力だけでなく、地域全体で情報を共有し、柔軟に対応できる経済基盤を築くことが不可欠となっています。

その意味でも、関西には大きな可能性があります。先般の大阪・関西万博は、世界中から最新の知と技術が集結する場となりました。これを一過性のにぎわいで終わらせることなく、技術の社会実装、産業振興、そして新たな国際交流へと、レガシーとしてつなげていくことがこれからの重要な課題です。

私が担当する科学技術・産業振興委員会は、関西の産業振興とイノベーションを加速する仕組みづくりを担います。これを実現するには、研究開発の成果を社会実装につなげる場や、産学官が連携して新たな価値を生み出す拠点の存在が欠かせません。大阪、京都、奈良にまたがる

「関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）」は、その役割を担う重要な拠点の一つです。私自身、本年、設立40周年の節目を迎えた関西文化学術研究都市推進機構の理事長に就任しました。京セラも同地に研究開発拠点を有していますので、けいはんな学研都市が次代の産業創出や社会課題解決に資する場として、さらに存在感を高めていけるよう取り組んでまいります。

さらに、2027年5月には「ワールドマスタースゲームズ2027関西」が開催されます。おおむね30歳以上であればだれでも参加できるこの大会は、一人ひとりの挑戦と多様な交流の輪を広げ、地域の独自性や日本の文化を世界に発信する「生涯スポーツの祭典」です。年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、多くの人がスポーツを通じて交流し、生きがいを実感できる貴重な機会となるでしょう。関西各地で競技が行われるため、参加者のみならず、その家族や友人、地域の方々も含めて各地に人の流れが生まれ、交流や消費の活性化にもつながります。京セラでも社員の参加を募るとともに、私自身も競技に出場したいと考えています。ぜひ皆さまと一緒に大会を成功に導きたいと思います。

京セラは創業以来、一人ひとりが自ら考え、行動し、その力を組織全体へとつなげる「全員参加経営」を大切にしてきました。この精神は企業経営にとどまらず、地域経済の発展にも通じるものだと確信しています。関西には、伝統に根差した知恵、未来を切り拓く技術、そして多様な価値観を受け入れる土壌があります。これらを地域の枠を越えて結びつけることで、「大関西」として大きな力を発揮できるはずです。地域、企業、世代をつなぎ、新たな価値を世界へ発信する取り組みに力を尽くしてまいります。（談）